

令和5年度 中央区立常盤小学校 外部評価報告書

外部評価委員：海老原 裕・田中 二郎・佐久間 一郎・鴛尾 明・小林 景子・橋元 実希子
報告書作成者：野口 敏朗

評価時期 令和 6年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1「確かな学力の向上」について

評価指標としている「国・都・区学力調査」において国の正答率を4・5・6学年すべてで5p～10p程度上回っている。また、区との比較ではわずかに下回っている教科もあるものの、正答率は、ほぼ同値である。一方、東京ベーシックドリルでは、特定の単元（学習内容）において目標値には至っていない。しかし、90%の保護者は、本校教員の指導方法・内容や授業改善に対し、高い評価をしていることから、さらなる分析と授業の工夫を求めたい。さらに、5・6学年の多くの児童は「学校での学びは、社会に出たとき役に立つ」と回答していることから、学校での学びを基に、主体的な学びへ発展させる教育環境が整いつつあるものと評価したい。ICT活用の授業では、ほぼ全児童が「好き」と回答していることから、ICTを活用しての「伸ばしたい力」を明確にした授業を、より一層、展開されたい。

重点目標2「国際教育の充実」について

英語の授業において4・5・6学年の児童の90%が「授業中、英語での関わりができた」と回答していることから、国際教育としての基礎作りは進んでいると判断する。また、国際教育としての地域学習では、97%の保護者がその内容を把握している。特に「日本橋」に特化した学習内容の充実においては93%の保護者が高く評価していることから、地域の教育力を有効に活用した学習が展開されていることが見て取れる。学校評議員会の席上でも、地域の学校への協力体制の高さを感じ取れるなど、国際教育が地域ぐるみで展開されていることが見て取れ、中央区国際教育推進パイロット校としての活動を高く評価したい。一方、異文化理解という視点での国際交流の学習については、実践についての認識は74%と高めてはいるものの、各交流の意味や価値についての児童の理解の一層の深化を望みたい。

重点目標3「豊かな体づくり」について

たてわり班活動など、異学年交流活動を通して、86%の児童が、他者を思いやる「心の教育」の展開を実感していて、97%の児童が「友達と仲良く生活している」と回答している。宿泊行事でも97%の児童が「友だちと触れ合うことができた」と回答するなど、他者を尊重する基盤が確立しつつある。各教科においても、話し合いや発表の場を意図的に設定していることも他者尊重意識を高めているのであろう。一方、自らの「豊かな体づくり」に関しては、87%の児童が「健康な体や心をつくろうとしている」と回答している。また、「学校は児童の健康・体力の増進に努めている」ことについては97%の保護者が認めている。しかしながら、保護者の13%がその事実を否定し、8%が「わからない」と回答している。「児童の健康づくり」は、家庭との連携は不可欠であるので、学校の活動を大いにアピールし、家庭の理解と一層の協力を求めたい。

2 今後の改善に向けた意見

学校の自己評価や児童・保護者へのアンケート調査は、適切に実施されていて、その集計や分析も良好であり、来年度への大きな指針となっている。そもそも、すべての教育活動は「学校教育目標」に迫るものである。したがって、各重点目標も「学校教育目標」を強く意識して設定されたい。例えば、「マイスクールスポーツ」や「互いに尊敬し合い協力して平和な社会を気づく」で「上品で豊かな心と健康な体をつくる」や、「勤労を尊び、進んで自分のつとめを果たす児童を育成する」ために、「確かな学力の向上」や「国際教育の充実」を目指す等の具体的な項目の設定を期待したい。目標設定では、「育てたい資質・能力」をしっかりと見定めて、具体的な評価項目と評価指標の設定が必要であると考え。

3 その他の意見

校長の学校経営方針を踏まえ、教職員が協働し、有為な児童の育成に励んでいることが拝察できる。